

舌出しの鈴

大佛頂寺の寺の寺宝「舌出しの鈴」として古くから伝えられています。三鈷鈴（さんこれい）に属するもので、全長一七・五センチメートル、鈴部の高さ九センチメートル、口径一〇センチメートルあります。柄部の三面に人面が彫刻されていて、動かすとそのうちの一面から両眼としたが飛び出すようになっていきます。鈴部の上部と下部に中国風の模様がついています。類型が少なく珍しいものです。古鐸（こたく・中国古代の鈴）は密教の法具として奈良朝時代に中国から渡来したものが始まりと伝えられています。この古鐸もその頃のものとして寺宝となっています。

なお、この古鐸は毎年二月二十一日の当寺の御影供（みえいく・弘法大師の命日に行う法要）の際に一般に公開されています。